

ただ今IAU京都総会開催中…



まだ、会期の途中で後半の一週間が残っていますが、とりあえず総会の進行状況を報告します。8月17日より受付が開始され、8月18日より科学セッションが開始されたIAU京都総会は、天気にも恵まれ、前半一週間の日程が無事終了しました。

1. 事務局、会場の立ち上げ

本総会では2000人近い参加者が予定されており、会議も複数の会場で並行して（最大14会場）開かれ、ポスター発表や展示も催されるので、登録受付業務、会場の設定など準備作業も大変がかりなものです。LOC（実行委員会）の委員数も最終的には30名を超え、会期前、会期中合わせてLOCアシスタントの数も140名近くになりました。LOCは8月14日より京都での作業を始め、東京にあった事務局を16日には、会場の国立京都国際会館（KICH）に移動、設定を無事完了しました。

2. 8月17日、受付開始

受付開始は午後2時からとアナウンスされていましたが、外国からの参加者の中には午前中よりKICHに現れ受付を催促する人がちらほらといました。2時前にはかなり多くの参加者が受付に押し寄せ、総会開催を楽しみにしている雰囲気が見てとれました。LOCのうれしい誤算は、現地登録者の数が予想より多く、このため、受付デスクに長い待行列ができてしまい、参加者に不便をかけたことでした。この日、約270名の参加者が受付を通過しました。

3. 8月18日、科学セッション開始

この日午前中は、まだ受付のみでしたが、前日同様多くの参加者が押し寄せ、受付は混雑を極めました。前日と合わせてこの日までに受付を通過した参加者は約920名に達し、予定参加者の約半数がすでにKICHに集まったこととなります。参加者の多さに、すでにこの頃より受付で渡す品物が不足しそうな不吉な(?)予感がただよいはじめ、3日後にはこの対策をすることが現実のものとなってしまいました。

この日の午後より3つのシンポジウムが始まり、心配した会場設定の不備もなく、会議は盛況で、最初の関門無事通過にLOC一同胸をなで下ろしました。コーヒブレイク時には、ポスター会場であるイベントホールに参加者があふれ、議論に花を咲かせていました。

夕刻には、KICHの庭園でレセプションが行われました。広い庭園も人で身動きできないほどで、食べ物があっという間になくなった（年会の懇親会をご想像下さい）にもかかわらず、参加者はいつまでも庭園を去らず、旧交を暖めたり、科学的な議論をかわしたり、古都の夕刻を楽しんでいました。

4. 8月20日、開会式・総会開催

この日の午後は、開会式、総会（ここでは全参加者出席による事務的な会議をさす）が行われました。開会式には、天皇皇后両陛下がご臨席されるということで、参加者には受付時に渡した名前入りの特製バッジをつけてもらい、これをIDとすることで警備上の混乱もなく、無事に会を遂行することができました。



写真1. 総会で司会をする Woltjer IAU 総裁.



写真2. レセプションで歓談する参加者.

開会式時には、会場である広いメインホールも参加者でほとんどの席が埋まる(約1200名参加?)盛況ぶりで、邦楽演奏に始まり、杉本組織委員長司会のもと、共同主催者代表の吉川学会議会議長、奥田天文学会理事長の開会挨拶、天皇陛下のお言葉、Woltjer (ヴォルチェ) IAU 総裁の開会挨拶と、格調高いスピーチに参加者も聞き入っていました。総会時は出席者がかなり減少しましたが、Woltjer 総裁の司会のもと、各種委員の紹介、勧告事項の提示とその一部の議決がありました。勧告の際、勧告委員会委員長である Pecker (ペッカー) 教授(フランス人)は、IAU の原則にのっとり(?)フランス語で読み上げ (IAU の公用語は英語とフランス語両方)、英語朗読者が別についたため、福島実行委員長が急遽朗読者のためのマイク持ちを買ってでるというハプニング(?)もありました。

5. 前半から後半へ向けて

参加者に会期中の週末を楽しんでもらうために、野辺山ツアー(1泊2日)、奈良ツアー(1日)を用意しましたが、それぞれ約60名、約800名の参加を得て、盛況の内に無事終了しました。評判

もかなり良かったようです。中には奈良ツアーを楽しみにしてきた人も多く、受付時の質問もこれに関するものが多かったようです。これ以外に平日にも、同伴参加者のために、京都市内の半日、一日ツアーをボランティアガイドの協力を得て実行し好評を得ています。

IAU 総会では独自の新聞が毎日発行され、科学セッションでの目玉事項の解説や、京都、日本文化の紹介、参加者本国の天文学事情の紹介などがあり、参加者の人気のまよになっています。

日本は物価が高い、参加登録費が高い、京都の夏は蒸し暑くて不快だ、などと総会参加にマイナスの要素がかなり強調されているような印象を受けていましたが、いざ蓋を開けてみると参加者は予想を上回り総会参加者の最高記録を更新しそうです。予備登録者は1893名(まだ全員が来ているわけではない)、8月23日までの現地登録者が139名です。

後半にも3つのシンポジウムをはじめとする科学セッションが目白押しでLOCとしては気のぬけない毎日です。後半も無事終了という報告が次回にできることを願って、途中報告とします。

(IAU 京都総会 LOC, 末松芳法)